



三百七十七万三千円となり、昨年度と比較しますと、一般会計が二一・九%、特別会計との合計額で二一・一%の増額とし、義務経費の伸びを抑制し、事業面に、できる限りの予算を投入するよう、配意しました。

一般会計の歳入予算規模を昨年度と比べると、市税は八・一%の伸びに止まったものの、国庫支出金は、都市計画事業の促進などにより昨年の約二倍に近い総額約二億円が見込まれ、使用料および手数料も、市営有料駐車場から約千六百万円の収入見込みも含めて、昨年度より二八・七%増の七千四百六十四万八千を見込み、地方交付税も二億二千八百万円と、昨年度より五千六百万円(三二・六%)という、大幅な伸びをみています。

歳出では、項目別に見ると民生費の伸びが最も高く、昨年度より七四・二%と大きく伸びて総額一億六千二百四十三万九千円となり、次いで伸び率の高いのが、土木費の五三・六%(総額三億五千二百四十四千円)、商工費の三九・七%(総額八千二百四十九万三千円)の順となっており、教育費も中宮祠小・中学校の屋内運動場建設費を含めて、総額一億七千四百十万六千円と、昨年度より約二千七百万円(一八・三%)を増額しています。

一方、国民健康保険費など七つの特別会計も、中宮祠地区の整備事業を終えた水道事業会計

対前年度	増額
民生費	74%
土木費	53%

重点施策について

が、一七・一%の減額となったほかは、いずれも昨年度の予算額を上回り、特に文化観光施設整備事業費は、総合会館建設事業のため、昨年度より六一・二%増の、二億三千七百二十六万八千円となりました。

市民本位に編成

『本年度の重点施策といたしましては、さきほど申し述べた観点から、日光市振興計画および広域市町村圏計画の、四十七年度の実施計画分を盛り込んだほか、あくまで市民本位に、幅広く選択いたしました』

市民福祉対策

市道舗装に 二千八百万円

『まず、市民の生活にゆとりと安らぎをもたらすためには、生活環境施設の整備が要求されており、生活道路の整備として市道舗装費に約二千八百万円を計上したほか、道路改良費にも約千七百万円を計上しました。土木費は、歳出総額の二二・

老人・児童福祉を強化

四%と、最も高額を占めており特にこの中の都市計画費には一億五千八百八十八万円を計上して、現在進行中の駅前土地区画整理事業の第二工区の街路新設工事のほか、第一工区内の舗装工事、稲荷川所野線の舗装工事などを行ないます。

汲取り料値上げ、市費負担で軽減

『民生面につきましては、ねたきり老人見舞金を倍額(一万円)とし、ひとりぐらしの老人のために“愛のベル”を設けるなどのほか、老人医療費の公費負担の必要額として、三千六百六十五万四千円を計上、児童福祉にも、児童手当の支給制度の採用によって、一千二百四十二万円、遺児手当に百三十四万四千円を計上したほか、心身障害児福祉手当、保育所の増設費であるいは児童公園整備費、乳児医療費などを措置しました』

衛生関係では、し尿汲取業務が円滑に運営され、しかも、よりサービスの向上を期すため、料金の値上げを実施せざるを得ない状況にありますので、この値上げ分の大半を市負担として補充する措置を講じ、市民負担の軽減を図りました』

(次のページへ続く)

